

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100109		
法人名	有限会社オオキタ・コーポレーション		
事業所名	グループホーム 夢楽園		
所在地	岡山市南区福島3丁目5-15		
自己評価作成日	平成 24年 7月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2010\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=3390100109-00&PrefCd=33&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=3390100109-00&PrefCd=33&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 24年 7月 31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みんなの個性や長所が発揮でき、認め合える関係で、人と人との関わりの中で心からの「ありがとう」の言葉が多く交わし合える場面作りを大切にしています。役割や楽しみがあり、ほりのある生活を支援し、自然体で安心して過ごせる温かいホームをチームで目指し、協力していません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地にあり、広い庭を開放し、小さな公園のようになっている。訪問当日が夏休みだったこともあり、近所の子供達が庭に来て遊んでいる姿も見られた。日頃から地域住民とお付き合いを重ねており、地域に溶け込んでいる事業所である。  
 事業所のお祭りや運営推進会議にも地域住民が積極的に参加している。お祭りのときには地域の方々が催し物で踊りを披露してくれたり、色々な備品を貸してくれたり協力して頂ける関係作りができています。  
 今年3月、防災対策の一環として2階からの避難用滑り台を設置している。地元消防署の方から利用者を抱えて滑る際の注意点を詳しく説明してもらい、今年の避難訓練で実際に使用している。  
 職員のスキルアップのため、しっかりと計画に基づき内部研修を行っている。研修には公休を利用して参加する職員が多く、一人一人の職員の意識レベルの高さが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目標とし、カンファレンスで職員間で共有し再確認したり、入職時のオリエンテーションでは理念の理解について指導したり意識づけを行っている。また、日々のかかわりの中で実践できているかを振り返り、自己認識できるようスタッフルーム、玄関に掲示している。	ホールとスタッフルームに掲示し、カンファレンスの中で日々の振り返りを行っている。また、新人研修で理念を説明し、皆で一つの目標に向かって支援していけるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園や小学校の行事を慰問交流している。近所への買い物、散歩の際は、挨拶や立ち話をしたり、名前を呼び合うなど顔なじみの関係ができており、良好な関係を保っている。	地元保育園の七夕会に参加したり、中学校の職場体験の受け入れなど交流が多い。近所の方がなすびやトマトなど野菜をおすそ分けしてくれたり、毎年鈴虫を持って来てくれる。行事があるときは近所にもお知らせし、時間があれば来てくれることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者さんのプライバシーや負担に配慮しながら、ヘルパー2級の実習先として積極的に人材育成に努めている。認知症のご家族を持つご近所の方の見学や相談もあり、専門職として介護の不安や負担軽減になるようアドバイスさせていただく機会もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、外部評価機関の方に参加協力していただき、評価結果、課題について報告したり、それに対する取り組み目標などについて意見やアドバイスをいただき、サービスの向上につなげている。	定期的に行事と絡めながら、運営推進会議を行っている。行政担当者に案内を出しているが、参加が少なく、議事録をまとめた書類で報告している。町内会長や地域代表の方が事業所のことを気にかけてくれており、積極的に意見や提案をしてくれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村職員の方の生活保護受給者の定期訪問や認定調査の際はホームの様子や入居者さんの暮らしぶりを知っていただいたり、相談や意見交換の良い機会となっている。	2ヶ月に1回、福祉事務所から生活保護受給者の担当者が様子を見に来ている。地域包括支援センターや市町村窓口へはできるだけ出向き、報告書提出や相談をするよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者さんの心身状況に注意を払い、安全を確保しながら、オープンな環境となっている。身体拘束は100パーセントせず、もしも必要が生じた場合でも他の方法で対応できるノウハウを話し合い、全職員に意識づけている。	身体拘束は行っていない。安全の為に必要かと思っても、何か別の方法がないか検討し、支援を行っている。社内研修では職員自身が身体拘束を体験したり、言葉による拘束などについても詳しく説明をし、意識づけを促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで具体的な事例や防止策について検討し、身体拘束ゼロや虐待防止のガイドラインを学び、意識の向上と防止の徹底をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度に関する学びの機会を得たり、対象となりそうなケースでは専門家に相談・アドバイスをいただける体制づくりをし、支援に結び付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点には、時間をかけて丁寧な説明を心掛けている。リスク・重度化・看取りについても思いを傾聴し、対応や方針を相談・同意を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんやご家族の思いを最優先に考え、遠慮なく意見や相談ができるような話しやすい雰囲気で作るよう心掛けている。意見、要望に添えるように誠実に対応し、サービスの質の向上の為前向きに検討している。	家族面会時にゆっくりと利用者の様子や状況を伝えている。できるだけお部屋で話をすることで、お互いに話しやすい雰囲気作りに努めている。遠方に住んでいる家族には定期的に電話をしている。意見や要望に対し、カンファレンス等で話し合い、できることはすぐに対応している。	ウェブカメラを設置しており、家族がパスワードを入れるといつでもフロアの様子を見る事ができる。フロアで姿が見えないと電話をしてくれる家族もおられるとのこと。家族にとってとても安心できる素晴らしいシステムだと思います。他の施設へも良さを伝えてほしいと願います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からの挨拶や何気ない会話を大切にしている。カンファレンスでも気軽に意見や提案を言いやすいような雰囲気作りで、出された事柄を反映し活かせるよう取り組んでいる。	日頃の挨拶や体調チェックを通じて、施設長自ら職員に声かけすることで、意見や要望の抽出に努めている。意見や要望はカンファレンスで取り上げ、反映させている。職員それぞれの得意分野を伸ばし、積極的に運営に参加してもらえるような雰囲気作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のストレスや疲労が集中しないよう、全職員の心身の健康状態に気を配っている。働きやすい職場作りを目指し、チームで助け支え合える、長所が発揮できお互いを認め合い、気持ちよく仕事ができるように力を注いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップや資格取得に向けた情報提供や事業者内外の研修の参加を勧めている。現場の中でも必要に応じて、個別に技術面や関わり方の指導を実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者の訪問や交流があり、お互いの現状での相談や情報交換をかわす機会を持つようにしている。自ホームの振り返りや見直しにもなり、ケアの向上につながるよう連携している。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と顔なじみになることから支援が始まる事ことを踏まえ、何度か遊びに来ていただき、ホームの雰囲気や職員と触れ合いを重ねる中でゆっくりと時間をかけ、安心して受け入れて頂けるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや不安なことなど現状をしっかりと聞き取り、専門職として相談に対して提案でき、わかりやすく説明、理解や安心感を得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要なことは、すぐに改善できるように対応し、困難な事柄にも前向きに検討し、柔軟に働きかけるよう調整している。他のサービスへの展開も含めた、広い視野での支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、入居者さんと職員が共に助け支え合う双方向の関係で「ありがとう」の言葉を多く交わせる場面づくりに留意している。入居者さんに生活の知恵や物の考え方教え励まされ、自然に感謝、尊敬の念で接することができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り、面会に来ていただき、疎遠にならないようお願いしている。面会時には、日頃の様子や状態をきめ細かくお伝えし、今後の対応方法について相談することで、同じ方向性で支援でき、良好な関係で協力できている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の生活が継続的にいけるよう、ご家族、親戚、知人の方が気兼ねなく訪問できたり、電話、手紙での交流も自由にできるよう、明るく温かい雰囲気作りを心がけている。	家族や親戚が訪問しやすい雰囲気づくりに努めている。暑中見舞いの手紙を出す人や、知り合いに直接電話する人等、馴染みの関係が継続していけるようにサポートしている。馴染みの歯医者や散髪屋さんへ行く利用者もいる。思い出の場所へドライブに出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者さん同士で、趣味や楽しみを共有したり、なじみの関係が築けている。また一人ひとりに目配り気配りし心身状態を把握、対応することで孤独感がなく調整役となれるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移り住まれた時にも、これまでの暮らしぶりや支援状況等、情報提供し、生活が円滑に継続できるよう連携を図るようにしている。退居後もホームに気軽に立ち寄られたり、こちら側から訪問したりと、長くお付き合いさせていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いに寄り添い、希望や意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方にも、ご家族に相談、助言をいただいたり、日頃の関わりの中で、表情や行動からくみ取り、ご本人本位に検討している。	言葉で表現できない利用者の思いをできるだけくみ取る事ができるよう努めている。利用者の表情やしぐさの他、色々な方法でアプローチを行い、一人一人に合ったコミュニケーションを探し出せるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	安心して話ができる環境や関係で、無理のない範囲で生活歴や好きな事柄などの情報収集をし、ホームの中でも自分らしい生活、心地よくなる生活の実現に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の有する能力を見極め、どのような言葉かけや準備があればできる可能性が広がるのかに注視し、時間がかかっても、ゆっくりと行うことで、できることが増えていき自信につながるような支援を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その方らしい暮らしの実現のために、定期的な見直しの他に、ご本人、ご家族の思いや意向の変化を敏感にこみ取り、気付きやケアの工夫をカンファレンスで話し合い共有したり、その都度、介護計画に反映させている。	状況に変化があったとき、すぐに担当者を中心に情報収集、意見交換を行い、ケアプランの変更を検討している。利用者の今の状況にあったケアプランを作成し、実施できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録に、健康状態の他に、入居者さんのいつもと違う言葉・表情・行動、それに対する職員の対応や反応を記載し、状況変化を把握したり、気付きシートを活用し、その後の介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状態変化や状況に応じて、他科への受診・通院の際の送迎や付き添いなど必要な時は、柔軟なサービスが提供できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域やボランティアの方が、ホームに来られ入居者さんと関わりが出来ることで、なじみの関係や認知症の理解が深まっている。外部に開かれたホームであり、社会の中で安心して豊かな暮らしが続けられる環境を大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの信頼関係や安心感を重視し、ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医となっている。その場合も、かかりつけ医とホームが連携を密にし、状態を相談、アドバイスなどいただいたり、適切な医療を受けられるよう、支援している。	利用者の希望するかかりつけ医の往診に合わせて同グループの看護師が立ち会い、健康管理を行っている。必要時には歯科往診も連携している。協力医療機関はいつでも連絡、相談ができ、適切な医療を受けることができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、健康管理や状態変化に応じた医療面での報告、相談をしている。日頃の気づきを介護職から看護職に正確に伝え連携することで早期対応を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人の普段の生活や、支援状況の情報提供と定期的な面会を行って、ご家族や病院側からも回復状況の把握をしている。環境変化に伴うダメージや負担を考慮し、受け入れ可能な段階で早期に退院、帰園できるよう働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望や意向を最優先に沿えるようホームで最大限可能な支援方法について医療との連携を図りつつ、チーム全体で方針を共通理解し前向きに取り組めるよう話し合いを重ねている。段階ごとに意思確認をし、終末期を安心して過ごせるような体制作りをしている。	入所時、看取り看護の同意書について家族に説明し、随時家族の意向を確認しながら対応している。家族の希望があれば主治医と連携し、最期までホームで看取ることが出来るようにしている。外部研修にも積極的に参加し、また、カンファレンス等で議題に上げながら、職員全体で方針を共有し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備し、全職員が周知できるようにしている。また、勉強会でケースを想定し、看護職等の指導のもとシュミレーションを行い、実際の場面で、適切に対応できるように実践力の向上を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方の指導のもと、地震・火災に備え定期的に避難訓練を実施している。その際は、ご近所の方の参加を呼びかけ救出方法や避難経路などの打ち合わせをし、いざの時の救助応援と協力要請している。非常用食料・備蓄の準備もしている。	年2回、避難訓練を実施している。今年3月、防災対策として緊急時避難用滑り台を設置。消防署から詳しく指導を受け、実際に5月の避難訓練時に使用している。3日分の備蓄食料や発電機、利用者情報をまとめたファイル等用意しており、防災対策の意識が高い。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分が相手だったらどう思うだろう・・・相手の立場で考えることや入居者さんの思いを何より大事に尊重すること、援助が必要な時にさりげない声かけ、ケアを心がけている。プライバシーに配慮すること、個人情報の守秘義務についても共通理解のもと責任ある取扱いと管理を徹底している。	話し方や声かけについて敬語までの必要はないが、利用者を尊重し、自分がされて嫌な事は相手にもしないという基本に忠実にを行うよう指導している。個人情報保護のため、介護記録や排泄チェック表などの記入は必ずスタッフルームで行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんに合わせた言葉かけや問いかけ方法を工夫し、また日頃からの寄り添い、信頼関係の中で気兼ねなく安心して自由に思いを表出でき、表情からも察知できることで理解し、自己、共同決定できるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日のスケジュールはあるが、パターンにはめるのではなく、その日の個々の方の状態やペースに合わせた声かけや見守りをしながら、個別的に過ごせるよう対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣、入浴後の衣服選びは、基本的にご本人の意向だが、困難な方にも選択肢を提示することで選ぶことの楽しみにつながっている。お化粧・装飾品もイベント以外でもおしゃれを楽しむ事でその方らしさを保てるようお手伝いしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた季節の野菜を食卓に取り入れたり、調理のできあがる過程の中での匂い・音・メニュー表など食事への関心・楽しみが食欲につながっている。みんなで一緒に困らんしながらの家庭的な雰囲気での食事や準備、片付けなど参加することでの役割作りも大切にしている。	職員と利用者が同じテーブルで同じメニューを会話しながら、楽しく食事している。粗い刻みや細かい刻み、ミキサー食等、利用者が食べやすい食事形態を検討し、提供している。ときには近くのスーパーでお弁当を買ったり、外食に行ったりすることもある。お盆拭きや配膳、下膳などできる部分は一緒に行っている。	調理専門の職員を配置し、調理を任せられていることもあり、利用者が調理をお手伝いする場面が少なくなっている。味見や後片付けなど利用者が出来る事を検討し、増やして欲しい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりのその日の体調・摂取量を把握したり、形態も個々に対応し食べやすく工夫している。食欲低下の時は、嗜好品や食べやすい物を組み入れ、大切な食事が楽しみ、喜びとなるように援助している。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員の方に、個々に合わせた方法で口腔ケアへ誘導している。自立の方でも口腔内のトラブルについて、さりげなく確認するようにしている。また、毎食前に口腔体操を行い、嚥下障害予防に留意している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄サイン、パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できる支援を行っている。夜間はポータブルトイレを使用したり、布、紙パンツ、パットの使い分けを検討、見直している。さりげなく皮膚の状態観察もし、トラブルがないかに気を付けている。	夜間のみポータブルを使用する方には、日中は部屋に置かず、夜に設置する等、自立した排泄が行えるよう支援している。個々の排泄のサインを見極め、早め早めのトイレ介助に努めている。車椅子の方にもリハビリの一環として、トイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の重要性をスタッフ間に浸透させ、水分摂取をまめに促したり、リハビリ体操を日課とし、体を動かし運動や散歩などに働きかけている。食事面では、繊維質の野菜・フルーツ・ヨーグルトなどメニューに取り入れることで自然排便できるように配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者さんのその日の体調や気分を伺い、共同決定している。個々の希望や習慣に合わせた入浴方法で個別に関わり満足して頂けたり、拒否のある方に対してもご家族・医師の協力のもと安心して入浴できるよう気を配っている。	利用者の気分や要望に合わせた入浴支援に取り組んでいる。着替える衣服を自分で選んでもらったり、保湿クリームや整髪剤等個々に合わせて対応する等楽しみとなる入浴を心掛けている。今の所、夜間浴はしていないが、希望があれば検討していく予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中を活気、はりのある過ごし方を工夫することで、夜間の安眠につなげるよう生活のリズムを整えるようにしている。不眠があれば、不安などの原因を取り除き、温かい飲み物・おしゃべり・マッサージなどでリラックスし安眠に導くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さんのお薬手帳、個人ファイルの中に薬の説明書を保管し、職員が詳細をいつでも確認できる。薬の変更があれば、状態観察を強化し、その後の変化について看護職・医師に報告相談し、連携を図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野での役割作りをし、手伝って頂いた時は感謝の言葉を伝えるようにしている。予定や楽しみがある生活を大切にしており、行事日程をリビングに張り出したり、カレンダーを利用し、買い物・面会・外出の予定を書き込み、楽しみにしている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブの他にも車椅子や押し車などその方に合わせた移動方法で園外散歩に出かけている。テラスや園庭は自由に出て気分転換や外の空気に触れたり、季節感や自然を感じられるような環境となっている。	気候のいい時には広いテラスで寛いだり、庭や近隣を散歩するなど外に出る機会を作るよう努めている。また、家族の協力のもと、外出や外食される方もおられる。季節行事の遠足や同グループの施設行事に参加する等の企画も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の安心感や満足感の為、少額のお金を自己管理している方もおられる。買い物後、残金の勘定やお小遣い帳の記入が脳の活性化や社会性の維持につながっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や季節の折々に手紙やはがきを出す支援を行っている。外部と電話や手紙のやりとりをしている方もおられ、電話を取り次ぐ際は、気兼ねなくゆっくりお話しできるような環境を整えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活音・臭い・温度などが不快な刺激になっていないか？職員や外来者の気付きを生かしながら、心地よく落ち着いて過ごせる清潔感のある生活空間の保持に努めている。	居心地良い空間を維持するために、不快な臭いや温度、湿度等こまめに空調管理を行い、台所に入るときにはスリッパを履きかえるなど衛生面にも配慮している。環境の変化に慣れるのに時間がかかるため、席替えや模様替えなどではできるだけしないようにしている。ソファなどゆとりの場所を作り、利用者がくつろげるようにしている。	フロアが明るい分、奥に続く廊下が少し暗く感じてしまう。電球の灯りの種類を変えたり、新たな明かり採りを検討して頂きたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやテラスに、ソファや椅子があり、気の合った方が交流できたり、共同空間の中ですぐ近くに人の気配を感じながら、気分によって1人でくつろげるスペースを確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にいるのとできるだけ同じような形で、安心して居心地良く過ごせるように新品ではなく自宅で使用していたなじみの品々や写真を持ち込んでいただけるようにご家族にも協力をお願いしている。	部屋にラグを用意しており、家族が来たら床に敷いて一緒に談話したり、部屋でわらじを作って職員にプレゼントしてくれた方、我が子のように大事にしていたお人形を持ってきている方など一人一人の生活が感じられる。できるだけ馴染みの物を持って来て頂けるよう家族にもお願いしている。また、利用者の動きを考え、転倒等の危険がないよう家具やコンセントの位置など細かい部分まで検討し、配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何をどのようにサポートすれば自立支援につながるのか？どんな言葉かけや準備が必要なのかを考え、スタッフ間で共有し支援方法の検討を繰り返し、よりよいケアを目指し、模索しながらチームで関わっている。		